

平素より、患者さんのご紹介をいただき、有難うございます。
当院では、予約制で診察を行っております。
患者さんのご紹介に際しましては、紹介状をご用意いただき
お取りいただきますよう、お願い申し上げます。

事前に必ず予約を

医療機関からの予約は 地域連携直通電話・FAX へお願いします。
TEL: 047-458-6543 FAX: 047-458-6545

- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 時間外の場合は FAX を送信してください。翌受付時間内にお返事いたします。

患者さんからの予約は 電話予約センター にて承ります。
予約センター電話番号: 047-458-6600 (患者さん専用)

- ・ 最初に音声ガイダンスが流れます。紹介状をお持ちの患者さんは 1 を押していただきます。
- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～12:00
※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

■検査連携について

- ・ 検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接、患者さんからの受付は出来ません。
- ・ 連携検査: CT、MRI(単純)、RI、X-P、マンモ、骨密度、セファロの画像検査のみ

■やちよ夜間小児急病センターについて

- ・ 専用電話番号: 047-458-6090 (医療相談は行っておりません)
- ・ 受付時間: 18:00～23:00
※予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。

日本医療機能評価機構の認定病院となりました!

新 Version での病院機能評価を終えて

当院は、日本医療機能評価機構による新 Version (一般病院 2 Ver.1.0) 病院機能評価を受審する機会を得て、私は準備委員長という立場から病院の取り組みを振りかえってみたいと思います。

訪問審査は、2014年2月10日(月)、11日(祝日)で週末大雪の週明けであり忘れられない受審日となりました。この審査に向けた準備委員会は2012年9月に第一回が開催され、月1回のペースで以後開催されました。2013年4月より新 Version での審査が開始され、これに向けての対応となりました。

病院全体として最初はまったく盛り上らずに、不安が大きかったです。2013年夏すぎから少しずつ皆さんの眼の色が変わってきたように思います。特にケアプロセスでのマニュアルなどの書類作成では、各部門の方々、特に看護部門の方には頑張ってくださいました。また2週間以内の退院サマリー提出も受審前に何と100%近くまで行ったのは驚きでした。結果はもちろんC(不合格)はなく医療連携、栄養管理機能と食事指導、管理者の病院運営のリーダーシップではS(秀でている)の評価をいただきました。

私をはじめ一人一人の力は小さくても病院全体が一体になればなんでも克服できるというのを肌で実感した出来事でした。

副院長 橋本 尚武



理念: 地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

～ 基本方針 ～

- ・ 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・ 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・ つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・ 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・ 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



「新副院長からのご挨拶」

皆様にはいつも温かいご支援・ご指導を賜り心より感謝申し上げます。

看護局担当副院長として八千代医療センターへ配転し、約半年が経ちました。看護局をはじめ医療局、事務局の方々にご協力いただきながら、顔の見える職場で、自分らしく元気に勤務しております。

今回は、看護局担当副院長の役割および課題について述べさせていただきます。

まず第一に、看護局長には患者に適切な看護を行うことができるよう監督管理する役割があります。看護局では「至誠と愛」の理念のもと、「患者さんが安全で安心できる看護の提供」を目標にあげています。「安全・安心な医療の提供」は本当に難しいと、看護局長としての責任の重さを改めて痛感しております。今後も患者さん一人ひとりの価値観を理解し、人間性を尊重した、安全で質の高い看護が展開できるよう取り組んでまいります。

次に、看護職の人材育成についてです。医療・看護は、人が作りだすものであり、人材育成は最も自分に求められていると考えます。東京女子医科大学人事部雇用対策チームは、「みんなちがってみんないい」を基本として採用しており、今年度は70名の新入職員が入職いたしました。見学やインターンシップに来る学生達も「先輩達が丁寧に指導してくれる、誰に対しても挨拶をしてくれる、環境や設備が素晴らしい」と絶賛してくれます。また、第11号の Greens で紹介のあった専門・認定看護師は、今年度小児救急看護、感染管理、慢性呼吸器疾患看護、手術看護の分野で4名誕生し、合計16名となりました。

さらに、クリニカルコーチという現場で教育を担当する看護師も5名が研修中で、総勢14名になる予定です。これからも、自分のやりたい看護を、自分らしくチャレンジをして、今以上に成長できるよう、主任・師長と共に人材育成、キャリア支援をしていきます。

そして、最後になりますが、病院経営に参画し組織貢献する、社会の要請に応じた活動をする役割があります。今年度は診療報酬が改定となり、地域包括ケアシステムの構築に向けて、益々地域との連携を強化する必要があります。八千代医療センターは、小児医療、総合周産期母子医療センターを充実させた高機能病院として、地域との連携を保ちながら当院の役割を果たせるよう努力していきたいと思っております。

腎臓移植手術も開始となり、小児心臓外科手術など手術室の充実、増床計画の推進など、さらに「地域から信頼される病院」を目指していきます。やりたい事が言える、やりたいことができる支援体制、職員が働きやすい環境づくりなど、副院長として精一杯努めていく所存でございます。

厳しい現実もありますが、多職種の方々と共に、医療チームが一つになって、取り組んでまいりますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

副院長 白石 和子 (看護局担当)

新CT稼働始めました

新CT導入

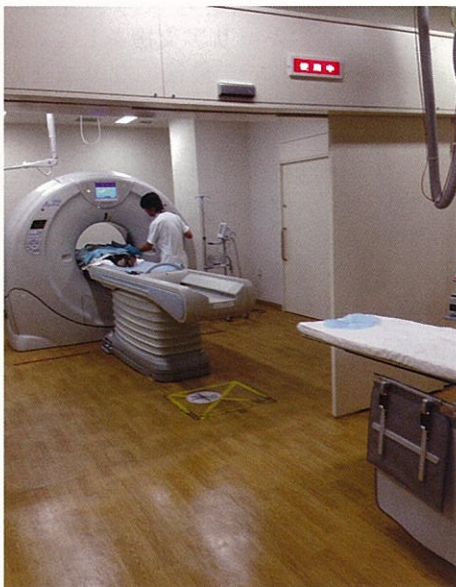
当院は、開院以来、8年が経過しました。今回、3台のCTのうち、16列CTを更新し、2014年5月から、320列の面検出器（エリアディテクター）を搭載したCT、Aquilion ONE（アクイリオン・ワン）ViSION edition（東芝社製）が稼働を始めました。

今までの64列CTでは、10秒程度の息止めが必要であり、ヘリカルスキャン（らせん状撮影）による画像の問題（ぶれ）もありました。これに対して、当院の320列CTでは、0.275秒で管球が1回転し、1回転で160mmの範囲が撮影できます。最短では管球1回転（0.275秒）で心臓を撮影することが可能で、冠動脈の描出など画像精度が格段に向上するとともに、患者さんの負担や被ばくも軽減されます。



Aquilion ONE ViSION

息止めできず安静状態を保てない乳幼児の検査にも大変有用で、被ばく低減ソフトも搭載されているため、小児被ばくを今までよりも減少させることができます（造影検査や安静処置が必要な小児の撮影は小児科を受診していただきます）。



IVR-CT 治療の様子

救急の外傷患者の緊急CTでも、胸部から骨盤まで最短7秒で撮影可能になりました。

専用の二酸化炭素注入機を用いた、CT大腸検査もできるようになりました（予約するためには、消化器内科または内視鏡科を受診していただきます）。

隣室の血管撮影室との間のドアを開放することにより、IVR-CTとして機能することもできます。

医療機関からの画像連携で検査を予約する場合は当院、医療支援室 地域連携にご連絡してください。

IVRについて

IVR（インターベンショナルラジオロジー）とは、画像診断の機器（CT、X線透視、超音波、血管撮影装置など）を用いて、画像誘導下に、深部組織を採取したり、深部の膿瘍をドレナージ（体外に出す）したり、血管内治療を行う手技のことです。

当院では、子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術（子宮動脈塞栓療法）、閉塞性動脈硬化症による下肢動脈狭窄の治療（経皮血管拡張術：バルーン拡張、ステント）、透析シャントの狭窄の治療（経皮血管拡張術：バルーン拡張）、肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術、内臓動脈瘤に対するコイル塞栓術、喀血の治療としての気管支動脈塞栓術、動脈硬化性または線維筋異形成による腎動脈狭窄、腎血管性高血圧の治療（経皮血管拡張術：ステント）などの外来、入院治療を行っています。特に、ビーズという球状塞栓物質を用いた子宮動脈塞栓術は、2014年から保険適用となりました。画像診断・IVR科または婦人科を受診し、相談してください。

プロフィール

画像診断・IVR科
科長 遠田 譲（とくだ じょう）

1987年 新潟大学医学部卒業

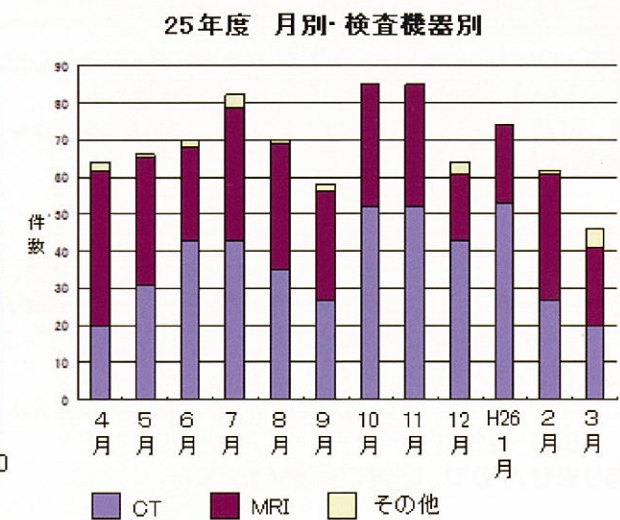
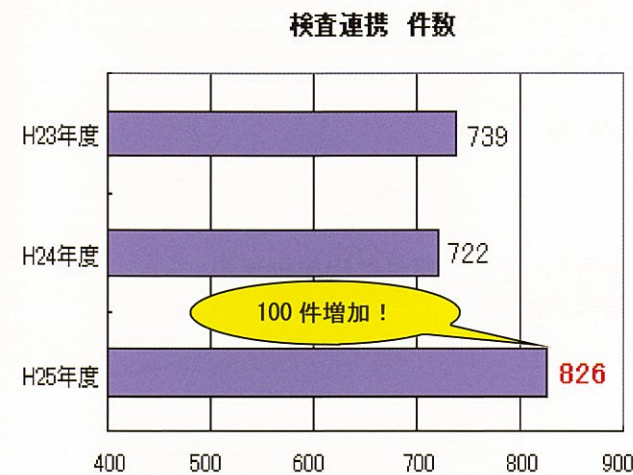
日本医学放射線学会診断専門医、日本 IVR 学会専門医、代議員、日本腹部救急医学会評議員、日本外科学会認定医

検査連携では・・・

CT（単純）・MRI（単純）・PI（骨シンチ・ガリウムシンチ）・一般単純撮影（胸部）・マンモグラフィー・骨密度測定・セファロのみです。

完全予約制で、検査日は月・火・水・金で行なっております。

予約時間は、部位によって異なりますので、医療支援室 地域連携までお問い合わせ下さい。



生体腎移植が始まりました

腎移植は慢性腎不全に対する根本的治療であり、透析療法と比較して、良好な生命予後と高いQOLがえられます。一方で、腎臓を提供して下さるドナーが必要であり、全身麻酔による移植手術を受けた後は、頂いた腎臓を長期にわたり機能させるためには免疫抑制薬をずっと内服していただく必要があります。腎臓移植には亡くなった方から腎臓提供を受ける献腎移植とご家族から提供いただく生体腎移植があります。

我が国では、残念ながら、献腎移植が非常に少なく、生体腎移植に頼らざるを得ない状況です。生体腎移植の場合、ご家族の方の自発的な意思により患者さんに提供いただくことが前提であり、提供手術が安全に行えること、提供後も健康面での心配が無い事を事前に十分に調べます。八千代医療センター泌尿器科では、国内屈指の症例数を誇る、東京女子医大病院のノウハウを生かして、透析療法に加えて、腎移植でも地域の腎疾患診療に貢献させて頂きたいと考えております。

月、木曜の午後に腎移植術前外来を開設いたしましたので、腎臓移植を考えておられる患者さんがいらっしゃいましたら、お話から結構ですので、お気軽にご紹介頂きましたら幸いです。

外来日	診療時間	専門外来
月・木	午後（要予約）	腎移植術前外来



泌尿器科 診療科長
乾 政志